

令和3年12月8日

長崎県知事 中村 法道 様

ふるさと自然の会
会長 川内野善治

要 望 書

「長崎県生物多様性保全戦略」には生物多様性の保全に関する様々な取り組みが紹介されているが、個別の取り組みが不十分で、庁内や振興局で共通の課題として共有されていないと感じる。今回の希少貝類であるタケノコカワニナの消滅をきっかけに「実効ある長崎県生物多様性保全戦略」とすべく努力して欲しい。

記

1. はじめに（当会の紹介と県北振興局河川課との関わり）

当会の前身「キープ・ネチャー」は佐世保市自主研究グループの助成金で平成2年度に相浦川水系・平成3年度に小森川水系の生物相を調査し「水系の自然度と保全・回復の方法について」としてまとめて冊子を作成した。そして、これを河川整備に関わる環境配慮に役立て貰おうと、県北振興局河川課に寄贈した。そして平成4～5年の小森川の全面的な堆積土砂除去の際に役立てて貰った。これを機に河川整備に伴う生物保全に関して協議をするようになった。

このような経緯から、川内野が以下の河川整備計画の委員となり、希少野生生物の生息情報の提供や保全に関わってきた。

(1)佐世保地区河川環境管理基本計画（h9）(2)県北地区溪流環境整備計画（h11）(3)相浦川河川整備計画（h13）(4)小森川河川整備計画（h15）(5)宮村川河川整備計画（h26）(6)江迎川河川整備計画（R3）また、対馬市佐護川と田川（h24）・日宇川（h26）・江迎川（h26）・対馬市田川（h27）・佐世保川についても河川整備計画前の段階でヒアリングを受けた。

しかし、この間にも数カ所の河川改修についてはヒアリング等もなく、知らない間に工事が行われ貴重な環境が壊される事例があった。これは、職員の異動に起因した引き継ぎ不足だったと考えられた。そこで、当会と河川課との関係を維持し、河川環境の保全のために、河川改修等の計画段階で保全策が検討出来るように文書での取り決めを河川課長に提案した。しかし、引き継ぎを確実に実施するので文書は必要ないと言うことで現在に至っている。

2. 県北振興局河川課において引き継ぎが行われていなかったために起きた事例

(1)生息地の破壊がなんとか防げた例

令和3年度に、取り決めが引き継がれずに着手された事業が1件、着手寸前が1件あった。

① 着手済みの事業

相浦川下流の和田津美神社付近干潟の排水門の1期工事である。ここではカワアイ（県

VU) (市 NT) ・ヘナタリ (県・市 VU) ・フトヘナタリ (県・市 NT) ・ウミニナ (県・市 NT) などの貝類、シオマネキ (県 EN) (市 CR) ・アシハラガニ (県・市 NT) ・ヒメアシハラガニ (県・市 NT) ・ユビアカベンケイガニ (県・市 NT) などの甲殻類、トビハゼ (県 VU) (市 EN) などの魚類に、多大な影響を与える事業であったため、二期工事は希少生物の保全を施して事業を進めることとなった。

② 着手直前の事業

江永川の河床掘削の計画があった。ここは県内での生息範囲が極めて狭いグンバイトンボ (県 EN) (市 CR) の生息地であり、河床に生育するヤナギモ (県 VU) (市 CR) ・河川内の岩上だけに生育するタニガワスゲ (市内で一ヶ所) があったため、協議と現地確認の結果希少種に極力影響のない方法で掘削を行うことが決まった。

③ 生息地の破壊を防げなかった例

鹿町川の河川感潮域の河床及び右岸堤防下部のアシ原内には希少種のタケノコカワニナが生息していたが、河床掘削によりすでに中クラス (50~100 個体) の個体群が消滅していた。

④ 鹿町川の個体群の保全は出来た可能性が高い

本種は狭い範囲にまとまって生息するため、採取し易い。よって可能な限り採取して一次的に避難させ、工事終了後に適正な場所に再放流することで保全出来た可能性が極めて高い。鹿町川の場合は堤防右岸側のアシ原内の湿地にもタケノコカワニナが生息していたのでここを保全することは簡単だった。また、本流部分の個体をそこに一次避難させることも出来たのに残念でならない。

3、無計画な河床掘削による宮村川のタケノコカワニナ個体群消滅

市内で河床掘削が各地で行われているようなので、タケノコカワニナの生息地を全て確認して回った。宮村川は河川整備計画があり、私は委員だったので安心していましたが、訪れてみて驚いた。タケノコカワニナ個体群とともに生息地がそっくり消失していた。

河川課課長に聞くと、地元からの要望で急遽河床掘削をしたとのこと。しかし、平成 25 年 8 月「宮村川の重要貝類と河川改修計画について」の p 5 の重要貝類確認地点と河川改修位置にタケノコカワニナが挙げられており、位置 (1/750~1/900) に「現状維持」とされている。

また、p 8 の河川横断図 (1/800) に本種が記載されている。さらに、p11 には保全方法が示されている。要するに、タケノコカワニナがいることを知った上で掘削をしている。委員だった私に一言伝えてくれれば検討の上保全できたはずで、生物多様性戦略や SDGs にも反する行為である。

希少生物の生息に与える影響が大きい場合は事業を中止すべきであるが、それが出来ない場合は、事業担当部局と環境部局が保全策を考えながら事業を進めることで、保全に関わる知識の蓄積ができ、似たような事業では生息地を壊すことなく事業を実施出来ることが可能である。壊してしまうと知識の蓄積が出来ず、毎回振り出しに戻らなければならな

いので、多大な時間のロスである。

鹿町川は過失と言えるが、宮村川は確信犯的行為で許されない。県はこの事態にどう対処しますか。

4、タケノコカワニナについて

トウガタカワニナ科に属し本州南部・四国・九州に分布する南日本の固有種であり、トウガタカワニナ科としては九州以北で見られる唯一の種。

希少種に指定され、カテゴリーは環境省（VU）・長崎県（EN）・佐世保市（CR）とされている。

ゲンジボタルの餌となるカワニナよりも細長く、いわゆるタケノコ状なのでこの名が付けられたのだろう。

(1)生態の概要

生息場所は汽水の最上部という非常に狭い範囲である。鹿町川の場合は幹川流路延長約5kmであるが、タケノコカワニナが生息する部分の長さは40m程度であり、流路延長から見ると点に過ぎない。この範囲内に生息可能な環境がなければならず、河川環境の変化を容易に受けやすい種である事が分かる。

淡水域に生息するカワニナは卵胎生で稚貝を生むが、本種は卵を産む。卵から孵った幼生は川を大きく遡るわけではないが、産卵や採餌に関連して淡水と海水を行き来するいわゆる通し回遊を行う。幼生は浮遊生活し生息に適した場所で稚貝となり定着する。

5、今後県がとるべき保全及び再生策（鹿町川・江迎川・宮村川）

「江迎川」にも本種が生息しているので、運良くそれらの幼生が鹿町川に浮遊してきた場合は再生が可能である。定着し易くするために、堤防右岸のアシ原内に湿地を作ると生息環境が再生する可能性が高くなると考えられる。ただ、江迎川でも整備が予定されており、ここでの保全の如何によって結果が左右されるだろう。

「宮村川」が流れ込む大村湾では大村市郡川にタケノコカワニナが生息するが、個体数が少ないので復活できるかどうか分からない。

いずれの場合も、タケノコカワニナが戻って来るような生息環境を整備し、5～10年の長いスパンで観察を続けながら待つしか無いと思われる。

6、希少種の今後の保全及び再生策（全般）

(1) 作業用リストの分析

レッドリスト作成や改訂の基本となる作業用リストには各分類の担当者が、それぞれの希少種の増減を考えカテゴリーを決定するが、減少した要因を具体的に記載して貰えばそれを分析することにより、課題が見えてくるはずである。

減少の要因が、採取や民間事業などでは無く公共事業によるものであれば、防ぐことは庁内の調整で可能である。

(2) 生物多様性が高い場所と種のリスト化

例えば、「河川感潮域・干潟・湿地」など生物多様性が高い場所を抽出し、既存のデータがあれば、そこに生息する希少生物種をリスト化する。これらの場所では、工事の規模に関わらず調査または聞き取りをすることで生息種を確認し保全策を検討する。いずれにしても開発部局と環境部局の連携がないと出来ないことである。

(3) 生息環境の整備

種によるが、すでに消滅した生物が判明しており、復活できる可能性のある種の場合は生息環境を整備する。そしてモニタリングを続け、運良く復活した場合の知見を積み上げていくことにより、生物多様性を育む環境保全や回復の糸口を掴めるようにすべきである。

これらは長期間を要すると思うが、そうしなければいつまで経っても生物多様性戦略は「絵に描いた餅」にしかならないと考える。

7、最後に

'(1)1 の「初めに」で述べたように生物多様性戦略を成功させるためには、これを策定した自然環境課が主体となって庁内・振興局等と調整を計り、確実に実効的な戦略をとることが必要であり、縦割り行政を改めて情報を密に共有することが大切である。

ちなみに、佐世保市の場合は開発部局に限らず 300 万円以上の工事で土地の改変を行う場合は環境政策課に報告するようなシステムがあり、当会が提供した希少種の位置情報（毎年更新 2020 年で約 7500 ポイント）をもとに、保全策を検討している。

(2)本要望書の 1～3、5～7 の項目について、県の考えを 12 月 27 日までに文書でお聞かせ下さい。

なお、本要望書及び回答は会のホームページに等に掲載することを予めご了承下さい。

以上